

1. (肝胆臓) 36歳女性。Basedow病で近医でフォローされていた。1カ月前より尿の濃染を自覚し、近医を受診したが甲状腺機能には問題なく経過を見ていた。これまでに肝障害を指摘されたことはない。9日前から腹部膨満を自覚し、体重は以前と比較して4kg増加していた。そのまま経過を見ていたが、全身倦怠感が出現したため、前医を受診した。意識は清明で、バイタルに異常は認められなかったが、黄疸著明であったため当科紹介入院となった。

入院時現症：身長 156 cm, 体重 75 kg, 脈拍数 109 bpm, 血圧 124/66 mmHg。

肝性脳症なし。胸部所見なし。腹部は膨満、軟で軽度圧痛あり。

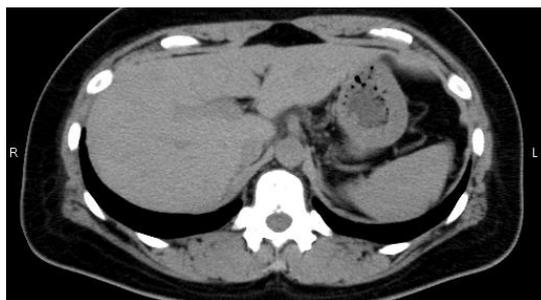
眼瞼結膜の貧血なし。眼球結膜の黄染著明。眼球突出あり。神経学的所見なし。

血液生化学的所見：白血球 6090 / $\mu$ L(好中球 61.8%, リンパ球 29.1%, 好酸球 1.3%, 単球 7.1%), 赤血球 456 万/ $\mu$ L, Hb 13.0g/dL, Ht 37.2%, 血小板 23.2 万/ $\mu$ L, AST 727 IU/L, ALT 479 IU/L, LDH 304 IU/L, ALP 465 IU/L,  $\gamma$ GTP 100 IU/L, 総ビリルビン 8.9 mg/dL, 直接ビリルビン 6.0 mg/dL, コリンエステラーゼ 101 IU/L(基準 400~800), アミラーゼ 87 IU/L(基準 37~160), 総蛋白 6.2 g/dL, アルブミン 2.3 g/dL, トリグリセリド 70 mg/dL, 総コレステロール 118 mg/dL, HDL コレステロール 5 mg/dL, LDL コレステロール 55 mg/dL, 尿素窒素 4 mg/dL, クレアチニン 0.41 mg/dL, 尿酸 2.8 mg/dL, Na 136 mEq/L, K 3.7 mEq/L, Cl 105 mEq/L, CRP 0.29 mg/dL, IgG 2232 mg/dL(基準 960~1960), IgA 421 mg/dL(基準 110~410), IgM 416 mg/dL(基準 65~350), 抗核抗体陽性、抗ミトコンドリア抗体陰性、プロトロンビン時間 28%(基準 80~120), 血糖 85 mg/dL, HbA1c 5.1%(基準 4.6~6.2), アンモニア 65  $\mu$ g/dl(基準 18~48)。

腹部 CT 画像 (A:1年前、B:入院日) を次に示す。

A (1年前)

B (入院日)



(1) CT 画像 A と比較して B から読み取れる内容として正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 腹水を認める。
- b 肝腫大を認める。
- c 脾腫を認める。
- d 肝にまだらな低吸収域を認める。
- e 肝表面の著明な凹凸と萎縮を認める。

入院後 6 日目からアンモニアの上昇と意識障害、羽ばたき振戦が出現した。

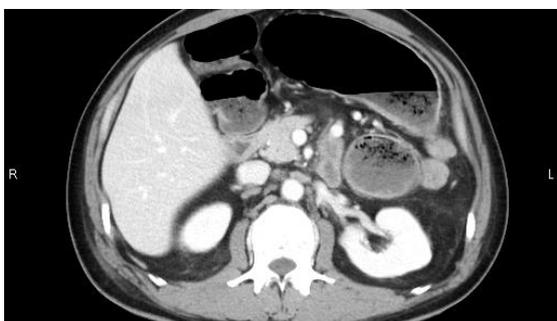
(2) この疾患で誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 劇症肝炎の急性型である。
- b 肝移植の適応となりうる。
- c 肝濁音界は縮小する。
- d 頭蓋内圧が亢進する。
- e 予後は良好である。

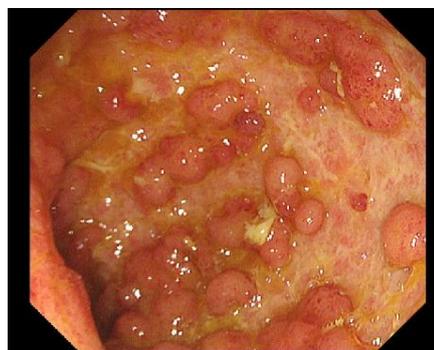
2. (腸管) 50歳男性。20日ほど前から下痢、血便が出現し、5日後近医を受診して感染性腸炎として加療された。その3日後血便悪化し、腹痛出現して前医でCTを撮影したところ全結腸に浮腫性壁肥厚認め、前医入院となった。入院後38℃台の発熱、10回以上の排便、しぶり腹あり。その後CTで最大径6cmの腸管の拡張を認め、CFで直腸に著明な浮腫、粘膜脱落膿性粘液の付着あり、当院紹介搬送された。

入院時現症:身長180cm,体重62.9kg,体温37.2℃,脈拍数96bpm,血圧119/74,SpO2 98%。  
腹部はやや膨満、軟で圧痛はなし。血液生化学所見:白血球5650/μL(好中球68.2%,リンパ球21.2%,好酸球0.2%,単球8.5%),赤血球269万/μL,Hb7.1g/dL,Ht23.1%,血小板76.5万/μL,AST23IU/L,ALT37IU/L,LDH121IU/L,ALP364IU/L,γGTP62IU/L,総ビリルビン0.1mg/dL,直接ビリルビン0.3mg/dL,コリンエステラーゼ68IU/L(基準400~800),アミラーゼ25IU/L(37~160),総蛋白5.0g/dL,アルブミン1.7g/dL,トリグリセリド93mg/dL,総コレステロール105mg/dL,HDLコレステロール25mg/dL,LDLコレステロール64mg/dL,尿素窒素6mg/dL,クレアチニン0.77mg/dL,尿酸3.9mg/dL,Na138mEq/L,K2.9mEq/L,Cl102mEq/L,CRP11.49mg/dL,SAA1477.1μg/mL,IgG607mg/dL(基準960~1960),IgA149mg/dL(基準110~410),IgM43mg/dL(基準65~350),プロトロンビン時間69%(基準80~120),血糖115mg/dL,HbA1c6.5%(基準4.6~6.2)。  
A(腹部CT画像)、B(下部消化管内視鏡像)を次に示す。

A



B



(1) 本疾患で正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 消化管壁は全層性に障害される。
- b 重症例ではサイトメガロウイルス腸炎を合併しやすい。
- c 大腸癌の発生母地となる。
- d 痔瘻形成を伴うことが多い。
- e 合併症として中毒性巨大結腸症がある。

(2)本疾患で認められる所見はどれか。2つ選べ。

- a 非乾酪性肉下種
- b cobblestone appearance
- c 縦走潰瘍
- d 陰窩膿瘍
- e 偽ポリポーシス

〈解答〉

1. (1)a,d,e (2)a,e

2. (1)b,c,e (2)d,e